

2017年度ジュサラ椰子 AF プロジェクト啓発セミナー報告書

NPO 法人 VERSTA

日時：2018年2月28日 9:30～15:40

場所：ハポザ村日伯文化協会第5部会館

参加者数：65名

参加者：レジストロ市農務部長、セテバラス市議会議長、議員、州農務局、環境局、レジストロ市、セテバラス市職員、サンカルロス連邦大学、サンパウロ州大学の先生、学生、州環境警察、小農など。

I. セミナー概要報告

司会：長井邦夫

9h30 – 寺島マリア文協副会長開会の挨拶

9h40 – 講演①ジュサラ椰子 AF プロジェクトによる地方農村活性化の可能性。

講師：レジストロ市観光審議会会長清水 Rubens 氏。

講演概要：

ハポザ村は近年すっかり寂れており、特に農業は目立たなくなっていた。ところが、日本の NPO 法人 VERSTA の支援する“ジュサラ椰子 AF プロジェクト”の活動が開始されてから、プロジェクト参加者を中心に農業生産が再開された。

VERSTA はアグロフォレストリーヘエコーツリズム組み込む方針であることから、リベイラ川地方特にレジストロ市、セテバラス市の活性化に寄与することが地元の機関、団体などから注目されている。

10h10 – 講演②ジュサラ椰子 AF プロジェクトの環境教育への寄与

講師：リオプレット村社会農村開発協会会長 Geraldo Francisco Aguiar 氏。

講演概要 –：

リオプレット村における“ジュサラ椰子 AF プロジェクト”は、家族を含めた青少年の環境、社会、文化教育に役立っている。Geraldo 氏の農場はアグロフォレストリーの面積拡大に伴って中高生の自然環境保全、森林再生、農作物などの学習にも利用されている。

P 1. Geraldo 氏講演	P 2. Geraldo 氏講演を聞く来場者
	

10h40 – 講演③ – ジュサラ椰子果実ポルパを学校給食に導入するパイロットプロジェクト

講師：セテバラス農協専務理事大田 Gilberto 氏。

講演概要：

ジュサラ椰子果実ポルパを学校給食に導入する目的で、サンパウロ州政府関係機関に積極的に働きかけている。問題点はまだ残っているが最近進歩が見られた。そのほか、一般市場にもポルパの販売を広げる運動を進めている。

11h10 – 講演④ Barra do Turvo 市 Cooperafloresta におけるアグロフォレストリー活動。

講師：Cooperafloresta 農協幹部 Artur Dalton Lima 氏。

講演概要：

Cooperafloresta におけるアグロフォレストリー活動を紹介。バナナ、サトウキビ、マンジョカ、野菜、樹木の AF で良好な実績を挙げている。そのほか、環境保全、特に水源地保護に力を入れている。農産物加工、青空市場、有機栽培なども紹介。

11h40 – 記念植樹(パウブラジル 3 本) – 記念撮影

12h00 – 昼食

13h00 – モデル圃場見学

村沢博 Jose 氏農場

山丸一敏氏農場 (3 箇所)

Jose Cunha 氏農場

15h30 – 岡 Norberto 文協書記長閉会の挨拶

P 3. 会場前の参加者記念撮影



P 4. セミナー後モデル圃場見学会



II. アンケート集計結果

【お詫び】

当セミナーに出席を予定していた VERSTA ブラジル側カウンターパート代表山添源二氏が、数日前の転倒事故のためアンケート用紙の印刷手配が間に合わず当日アンケートは実施できなかったが、後日メール調査（回収 18 人）を実施したので、その集計結果を報告する。

1. 回答者プロフィール

(1) 回答者数

①男性：14 人（77%） ②女性：4 人（23%） ③合計 18 名

(2) 回答者年齢

①10 代（1 人：6%） ②20 代（1 人：6%） ③30 代（2 人：11%） ④40 代（1 人：6%） ⑤50 代（8 人：44%） ⑥60 代以上（5 人：27%）

(3) 回答者住所

①ハッピーザ村（4 人：22%） ②リオプレット村（0 人：0%） ③その他（14 人：78%） ⇒（居住地：Registro（5 人）、Cananeia（1 人）、Guapiruvu（1 人）、Votupoca（1 人）

2. アンケート結果

Q1. 本日のセミナーに参加する前から「ジュサラ椰子 AF」を知っていましたか？

⇒A1. 知っていた（16 人：89%） A2. 知らなかった（2 人：11%）

Q2. 本日のセミナーで「ジュサラ椰子 AF」の内容を理解できましたか？

⇒A1. 理解できた（16 人：89%） A2. 理解できなかった（2 人：11%）

〈理由〉すでに AF プロジェクトに参加している。AF セミナーに初の出席。

Q3. 今後「ジュサラ椰子 AF」栽培活動に参加したいと思いますか？

⇒A1. 思う（14 人：78%） A2. 思わない（4 人：22%）

〈理由〉他のプロジェクトに参加している。AF プロジェクトの重要性。

AF プロジェクトは小農にもっとも適している。

Q4. 「ジュサラ椰子 AF」の樹間作物として栽培を希望する作物は何ですか？

⇒希望作物（バナナ、高付加価値バナナ、アセロラ、マンジョカ、フェジョン、カボチャ、ラッキョウ、蔬菜類、アサイ、土地に合った果樹、肥料植物、グアバ、パイナップル、レモン、パパイヤ、パッションフルーツ、ジャボチカバ、マタアトランチカ固有果樹）

〈理由〉経済性、自家用作物、小農の財政向上、食料保安、農村強化

Q5. 皆さんの畑ではどんな作物を栽培していますか？

⇒栽培作物（バナナ、小豆、ジュサラ椰子、故胡椒、蔬菜類、リーチ、観賞用植物、ジャボチカバ、生め、しょうが、しそ、ラッキョウ、ププニャ、竹の子、イグサ、茶）

〈理由〉特に記入なし

Q6. 「ジュサラ椰子 AF」で収穫される果実は、どのような加工品が売れると思いますか？

⇒希望加工品（ポルプ、ゼリー、パン、ケーキ、缶詰、リキュール）

〈理由〉特に記入なし

Q7.現在、「ジュサラ椰子 AF」モデル圃場見学を組み入れたエコツーリズム計画を検討していますが、エコツーリズム導入に賛成しますか？

⇒A1.賛成（18人：100%） A2.不賛成（0人：0%）

〈理由〉生産者と消費者を直結する。観光者をAFプロジェクトにひきつける。生産者の利益向上。自然食物を消費者に供給する。AFプロジェクトは観光客に関心を持たせる。

Q8.エコツーリズム観光客に提供できるお土産品はどんなものが考えられますか？

⇒提供できるエコツーリズム土産品

①植物、動物多様性の観測、②川、滝など自然美、③ジュサラ椰子果実ポルプ、④ププニャ、⑤お茶、⑥果物、⑦遊歩道、⑧釣り、⑨畜産、⑩地元料理、⑪マタアトランチカ固有果実、⑫地方歴史・文化、⑬農産物一般、⑭竹の子

Q9.皆さんの地域で、「ジュサラ椰子 AF」を導入する上で課題となっている事は何ですか？

⇒ジュサラ椰子 AF 導入課題

①単一農業、②度々あるパウミット盗伐、③環境保護法による規制、④治安悪化、⑤空中散布。

〈理由〉特に記入なし

Q10. 今後、VERSTA に期待したい支援活動を自由記述して下さい。

⇒期待したい支援活動

①農産物の付加価値研究の支援、②日系企業によるジュサラ椰子果実パルプの加工、③付加価値をつける利用、④ジュサラ椰子植栽拡大、⑤ハポザ村活性化に寄与、⑥エコツーリズム展開

〈理由〉特に記入なし

3. アンケート考察

（1）回答者プロフィールについて

①年齢層について

今回の回答者の年齢は、10代から60代まで幅広い年齢層から回収できたが、50代（8人：44%）、60代以上（5人：27%）、30代（2人：11%）と、高齢の回答者が多い傾向が見られた。

昨年度の回答者の年齢層、50代（14人：28.6%）、40代（12人：24.5%）、30代（9人：18.4%）と比較し、やや高齢化傾向が見られた。

②住所について

今回の回答者の住所は、レジストロ市（5人：28%）、ハッポーザ村（4人：22%）、その他はCananeia（1人）、Guapiruvu（1人）、Votupoca（1人）であった。

昨年度の回答者の住所、ハッピーザ村（8人/16.3%）、リオプレット村（5人/10.2%） レジストロ市（10人/20.4%） カポンボニト市（6人/12.2%） セテバラス市（4人/8.2%） サンパウロ市（8人/16.3%） その他（8人/16.3%）と同様に、ハッピーザ村、レジストロ市からの参加者が多い傾向が見られた。

（2）アンケート結果について

Q1.ジュサラ椰子 AF の認知度について

今回の回答者のジュサラ椰子 AF 認知度は、A1.知っていた（16人：89%） A2.知らなかった（2人：11%）であった。

昨年度の回答、A1.知っていた（37人/75.5%） A2.知らなかった（12人/24.5%）と比較し、認知度向上の傾向が見られた。

Q2. ジュサラ椰子 AF 理解度について

本日のセミナーによる「ジュサラ椰子 AF」理解度は、A1.理解できた（16人：89%）、A2.理解できなかった（2人：11%）であった。

昨年度の回答、A1.理解できた（49人/100.0%）、A2.理解できなかった（0人/0.0%）と比較し、理解できない参加者が増えたので、内容の分かり易さの検討が必要と考えられる。

Q3. 「ジュサラ椰子 AF」栽培活動への参加意向について

今後の「ジュサラ椰子 AF」栽培活動への参加意向は、A1.思う（14名：78%）、A2.思わない（4名：22%）であった。

昨年度の回答、A1.思う（41人/83.7%）、A2.思わない（3人/6.1%）、無回答（5人/10.2%）に比較し、参加意向の減少傾向がやや見られるので、対応検討が必要と考えられる。

Q4. 「ジュサラ椰子 AF」で栽培希望する樹間作物について

樹間作物の栽培希望は、バナナ、高付加価値バナナ、アセロラ、マンジョカ、フェジョーン、カボチャ、ラッキョウ、野菜類、アサイ、土地に合った果樹、肥料植物、グアバ、パイナップル、レモン、パパイヤ、パッションフルーツ、ジャボチカバ、マタアトランチカ固有果樹であった。

昨年度の回答、在来果実類（12人/34.3%）、果実類（7人/20.0%）、野菜類（3人/8.6%）、その他（13人/37.1%）⇒有機野菜（1人/2.9%）、有機茶（1人/2.9%）、マンジョカ（1人/2.9%）、バナナ（1人/2.9%）、パイナップル（1人/2.9%）、豆類（1人/2.9%）、トウモロコシ（1人/2.9%）、サツマイモ（1人/2.9%）、パッションフルーツ（1人/2.9%）、米（1人/2.9%）、カボチャ類（1人/2.9%）、パパイヤ（1人/2.9%）、コーヒー（1人/2.9%）に比較し、土地に合った高付加価値作物の栽培希望の高まりが見られる。

Q5.現在の栽培作物について

現在の栽培作物は、バナナ、小豆、ジュサラ椰子、故胡椒、蔬菜類、リーチ、観賞用植物、ジャボチカバ、生め、しょうが、しそ、ラッキョウ、ププニヤ、竹の子、イグサ、茶であった。

昨年度の回答、ジュサラ椰子（9人/12.2%）、ププニア椰子（8人/10.8%）、野菜類（8人/10.8%）、果実類（7人/9.5%）、バナナ（6人/8.1%）、柑橘類（5人/6.8%）、在来果実類（5人/6.8%）、観葉植物（4人/5.4%）、レイチー（4人/5.4%）、茶（3人/4.1%）、在来椰子（3人/4.1%）、コーヒー（2人/2.7%）、マンジオカ（2人/2.7%）、その他（8人/10.8%）に比較し、大きな変化は見られなかった。

Q6.「ジュサラ椰子 AF」産物の加工手法について

売れると考える加工手法は、ポルプ、ゼリー、パン、ケーキ、缶詰、リキュールであった。

昨年度の回答、パルプ（17人/36.2%）、菓子（8人/17.0%）、ゼリー（5人/10.6%）、ジュース（4人/8.5%）、缶詰（4人/8.5%）、冷凍品（3人/6.4%）、学校給食（2人/4.3%）、簡易加工（2人/4.3%）、その他（2人/4.3%）に比較し、大きな変化はないが、昨年度上げられた学校給食への採用は、市当局との話し合いにより進展があった旨セミナー報告があった。

Q7.「ジュサラ椰子 AF」栽培地へのエコツーリズムの導入について

エコツーリズムの導入は、A1.賛成（18人：100%）、A2.不賛成（0人：0%）であった。

昨年の回答も賛成100%であり、エコツーリズムへの関心の高さを示していると考えられる。

Q8.エコツーリズム観光客に提供できるお土産品について

提供できるお土産品は、①植物・動物多様性の観測、②川、滝など自然美、③ジュサラ椰子果実ポルプ、④ププニヤ、⑤お茶、⑥果物、⑦遊歩道、⑧釣り、⑨畜産、⑩地元料理、⑪マタアトランチカ固有果実、⑫地方歴史・文化、⑬農産物一般、⑭竹の子であった。

昨年の回答、野生動物の観察（3人/15.8%）、自然風景の観察（3人/15.8%）、遊歩道（2人/10.5%）、その他（11人/57.9%）⇒新鮮な産物（1人/5.3%）、地鶏の卵（1人/5.3%）、菓子（1人/5.3%）、ジュース（1人/5.3%）、自転車による散策（1人/5.3%）、パルプ（1人/5.3%）、ガイド（1人/5.3%）、宿泊施設（1人/5.3%）、地元の料理（1人/5.3%）、河（1人/5.3%）、滝（1人/5.3%）に比較し、植物・動物多様性の観測、地方歴史・文化、マタアトランチカ固有果実などマタアトランチカに注目した産物提供が増えたことが注目される。

Q9.「ジュサラ椰子 AF」導入課題について

地元の「ジュサラ椰子 AF」導入課題は、①単一農業、②度々あるパウミット盗伐、③環境保護法による規制、④治安悪化、⑤空中散布であった。

昨年度の回答、普及不足（3人/17.6%）、奨励策不足（2人/11.8%）、窃盗（2人/11.8%）、その他（10人/58.8%）⇒認識不足（1人/5.9%）、関心不足（1人/5.9%）、収入不足（1人/5.9%）、融資不足（1人/5.9%）、知識不足（1人/5.9%）、指導不足（1人/5.9%）、研修不足（1人/5.9%）、道路条件（1人/5.9%）、距離（1人/5.9%）、急傾斜地（1人/5.9%）に比較し、パウミット盗伐、環境保護法、治安悪化、空中散布などブラジル特有も課題が浮き彫りになった。

Q10.VERSTA へ期待したい支援活動について

VERSTA へ期待したい支援活動は、①農産物の付加価値研究の支援、②日系企業によるジュサラ椰子果実パルプの加工、③付加価値をつける利用、④ジュサラ椰子植栽拡大、⑤ハポザ村活性化に寄与、⑥エコツリズム展開であった。

昨年の回答、プロジェクトの継続（11人/47.8%）、定期的技術指導（2人/8.7%）、その他（10人/43.5%）⇒プロジェクトをカッポンボニート地域に拡張（1人/4.3%）、他地域のAFプロジェクト（1人/4.3%）、例えばパラ州トメアスー地域との交流（1人/4.3%）、小農の強化（1人/4.3%）、小農への支援（1人/4.3%）、農村における環境教育（1人/4.3%）、ジュサラ椰子果実加工設備（1人/4.3%）、苗木配布（1人/4.3%）、肥料配布（1人/4.3%）、クルクマ・しょうがなど短期作物による自立を向けての営農指導（1人/4.3%）に比較し、「ジュサラ椰子 AF」産物の付加価値化支援の高まりが認められた。

以上